

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	東京工芸大学工学部 コンピュータ応用学科	実施時期	2014年度 前期
対象学年・学期・人数	3 学年・前期・82 名		
講座名	システムエンジニアリング		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の種類	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	システムエンジニアリング(SE)の技術に関する専門知識をもとに、現場のシステムの設計・構築に携わる基本的な能力を身に付ける。		
連携の狙い、目的・目標	システムエンジニアリング(SE)の役割を理解し、実際に情報サービス産業で必要となる技術についての基礎知識を得る。		
連携にあたっての課題・懸念	授業で学んだシステムエンジニアリング(SE)の基礎的な知識と技術をこれからのIT企業に対する就職活動や実際の会社生活に活かしてほしい。		
講座の位置づけ 既存講座との関係	選択科目で2単位。 既存講座との関係は特になし。		
履修前提条件	3年生以上。		
授業準備と実施の体制	講義要約と講義スライドを配布資料として授業前に用意。		
成績評価の方法	提出物、授業内の小テストおよび期末テストにて評価。		

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ 90 分で実施)	講義	実施担当・役割分担
	2 単位 毎週月曜日 2 時限 1コマ 時間は 11:00 から 12:20 まで (残り10分は学生のレポート作成)	演習及び 実習は特 になし。	-授業前の準備は宇田川 -配布資料のコピーは事務 室の川野
	各コマの内容 1) ガイダンス 2) SE とは 3) SE のマネジメントスキル 4) 情報システムの企画と提案 5) システム設計の概要 6) システムテストと運用テストの意義 7) 情報サービス産業界の現状 8) データベースの知識 9) ネットワークの知識 10) 情報セキュリティと個人情報保護 11) プロジェクトマネジメント 12) SE のベーススキルと関連知識 13) システム化事例紹介 14) 授業全般の総括とまとめ		
演習・実習の内容 必要なマシン環境等	講師の講演を聴くため学生の演習及び実習は特になし。 プロジェクターと PC、スピーカなど		

2. 講座実施後の情報

受講者の声(受講目的、修得目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービス業界の企業情報や就職情報を入手したい。 ・システム設計の実例の話がほしい。
受講者の感想(本講座で得られたもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な講師の方が来て下さり、毎回異なる企業に対する情報を得られた。 ・この授業でシステムエンジニアリングのたくさんの知識を学ぶ事が出来た。 ・これから社会に出て役に立つ話を聞けて良かった。 ・実際に情報サービス産業の現場で活躍されている方の話を聴いてシステムエンジニアの職に関する理解が増えた。
先生の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・将来システムエンジニアを希望している学生に非常に良い機会になると思う。 ・学生がシステムエンジニアという職業について前向きになる。 ・普通の授業とは違って、実際に働いている SE 専門の講師から聴ける貴重な経験談を学生は興味深く大事に聴いてくれた。 ・学生の就職活動にもとても役に立つと思う。
企業・団体による評価	<p>講義で学んだ個別の概念や技術が実務の世界でどのように使われているか、各企業や講師の体験をベースにした事例を通して学ぶことに、受講生の多くは価値を見出しているといえる。「毎回、異なった企業の異なった講師が担当する。」という、神情協 SE 講座ポリシーは妥当なものであると考えることができる。学生は全体に大人しく、おおむね真面目な受講態度で取り組んでいた。担当の先生からは、来年度も同様に依頼したい旨の依頼があった。</p>
今後の展望 (継続に向けた課題)	特になし。

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称:大学向けSE講座 講義形式:SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会(会員企業の認定講師)	費用	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義:01(ガイダンス) 講義:02(SEとは) 講義:03(SEのマネジメントスキル) 講義:04(情報システムの企画と提案) 講義:05(システム設計の概要) 講義:06(システムテストと運用テストの意義) 講義:07(情報サービス産業界の現状) 講義:08(データベースの知識) 講義:09(ネットワークの知識) 講義:10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義:11(プロジェクトマネジメント) 講義:12(SEのベーススキルと関連知識) 講義:13(特別講義、システム化事例紹介) 講義:14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		